

感謝表現とその応答表現に関する一考察

—話し言葉の場合と書き言葉の場合—

金庭 久美子 (目白大学)

k. kaneniwa@mejiro. ac. jp

【要約】

本研究は感謝表現とその応答表現の実態を明らかにすることを目的とする。話し言葉については文献調査を行った結果、親疎関係や負担の程度によって応答の際、否定、会釈や無言、相互感謝などで表現することがわかった。書き言葉については日本語母語話者と中上級レベルの日本語学習者を対象に、メール文タスクを用い、翻訳のお礼に対する応答表現について調査した結果、母語話者はほぼ全員が「お役に立てて+形容表現」を用いた。一方、学習者も書き言葉の応答表現に気づいており、母語話者と同様の表現や類似の表現を用いることが明らかになった。

1. はじめに

本研究は感謝表現とその応答表現に注目する。そのきっかけは、学習者から以下のような疑問を投げかけられたからである。

学習者 A: コンビニで「ありがとうございます」と言われたら、なんと答えたらいいいのか。「どういたしまして」と言ったら変な顔をされた。

学習者 B: 対面ならお礼に対する応答はなんとか伝えられそうだが、メールでお礼を言われたら何と返信したらいいかわからない。

学習者 A は初級学習者であるが、学習者の母語では「ありがとう」の応答として「どういたしまして」に相当する表現があり、それをそのまま使ってみたのであろう。筆者自身の経験であるが、スロベニアのレストランで「Hvala」(「ありがとう」の意味) というと、必ず「Prosim」(「どういたしまして」の意味) という答えが返ってきた。この2つの表現はたしかに対であるかのように思われた。

学習者 B は中級学習者であり、日本語のメール文では「どういたしまして」以外の表現を使うだろうと思い、悩んでしまったのだろう。

相手との関係を維持するためには、お礼に対する応答は必要な表現であり、その実態を知り、指導に生かす必要がある。本研究ではその答えを探るべく、話し言葉の場合は先行研究から、書き言葉の場合はメール文の例から実際にどのように答えるのがよいのか、考えてみたい。

2. 本研究の目的

本研究は、以下の2つの課題に取り組む。

1) 話し言葉の対話において、感謝表現に対する応答表現として、具体的にどのような表現がみられるのか、どんな状況でその表現が選択されるのか（文献調査）

2) 書き言葉のメール文にみられる感謝に対する応答表現として、具体的にどのような表現がみられるのか（実態調査）

3. 話し言葉における感謝表現に対する応答表現

本研究は、西（2006a）、呉・金（2020）、徐・陳（2021）の3つの研究から、日本語の感謝表現に対する応答表現の現状を探り、どのような場面でどのように言うのかについて総合的な考察を行う。

3.1 西（2006a）による調査

西（2006a）は、意識調査と街頭調査の2つの調査を行っている。

まず、意識調査では、21名の日本人大学生、24名の日本人大学生（女性）、24名の専任教員を対象に3つの調査をおこなっている。

いずれの学生の調査においても、基本的に親しい関係ほど「はい」や「はいはい」等の肯定型の応答をすると回答する割合が高く、目上の人や面識のない人には、「いいえ」や「いえいえ」等の否定型の応答をすると回答した割合が高かった。一方、教員のほうが、「はい」や「はいはい」といった肯定型よりも「いいえ」「いえいえ」等の否定型の応答や「どういたしまして」という応答をしていると回答する割合が高かったということである。

次に街頭調査では、①道を教えてもらった時の応答（125名）、②写真を撮ってもらった時の応答（52名）、③アンケート調査に協力してもらった時の応答（107名）の3つの調査を行っている。これら3つの調査の284名の結果から、言語行動として、「無言」は143名、「はい」系は62名、「いえいえ」系は29名だったということである。さらに、その際、非言語行動として「笑顔のみ」は120名、「笑顔+会釈」は83名、「無表情+会釈」は22名とのことであった。

このことから、感謝の応答表現は、親疎関係、上下関係で表現が異なり、特に親疎関係が疎の場合や相手が目上の場合、否定型になると言える。例えば、XとYのやりとりでは、X（疎、上）の「ありがとう」に対しY（疎、下）は「いえ」「いえいえ」のような応答を行う。しかしながら、親疎関係の疎の見知らぬ相手だからといって、常に否定型になるわけではないようである。道聞きのお礼、写真撮影のお礼、アンケート調査のお礼などの負担の程度の低い場合、無言となるということである。例えば、PとQのやりとりでは、Pの「ありがとうございます」に対し、Qは（疎）無言（笑顔、会釈など）といった反応をする。また、「どういたしまして」の使用が少ないことも明らかになった。

このようなことを踏まえ、西（2006）の研究における疑問として、以下の点が挙げられる。

- 1) 対象者別（相手による差）だけの違いで、応答に差が出るのか。
- 2) 負担の程度の違いによって、どのような表現がみられるのか。

3.2 呉・金（2020）による調査

西（2006a）の研究の疑問に答えるために、呉・金（2020）の調査に注目する。呉・金（2020）は、感謝に対する応答の日韓比較のために東京居住の日本人大学生37人、釜山居住の韓人大学生40人を対象に談話完成テスト（DCT）による調査を行っている。その調査では、物質的なものに対する感謝応答の「【場面Ⅰ】自分からの好意で贈り物、食事のご馳走、お礼の食事のご馳走を行った場合」につ

いて、社会的地位（教授、友人、後輩）、親疎関係の違いから6つの談話完成の調査を行った。さらに、非物質的なものに対する感謝応答の「【場面Ⅱ】相手からの依頼で助けてあげた場合」について、社会的地位（教授、友人、後輩）、親疎関係の違いに加え、負担の程度（大小）から12の談話完成の調査を行った。

その結果、場面Ⅰ「好意で贈り物をあげた」場合は親疎に関係なく、日本語の場合、「承認（「うん」等）>非言語表現>否定（「いやいや」等）の順に多く用いた。一方、韓国語の場合、「承認>否定>非言語表現」の順に用いた。

次に、場面Ⅱ「教授の依頼で助けてあげた」場合は、日本語の場合、負担の程度の大小を問わず「否定>承認」の順に用いたり「助けの意思の表明（「いつでも言ってください」等）」を用いたりした。一方、韓国語の場合、負担の程度が大では「否定」が多く見られ、負担の程度が小では「承認」が見られたということであった。

また、場面Ⅱ「親しい友達の依頼で助けてあげた」場合は、日本語の場合、負担の程度の大小を問わず「否定」が多く見られ、韓国語の場合、負担の程度が大で親しい友人の際は「恩返しの要求（「次は〇〇がおごってね」等）」が見られ、親しくない友人の際は「否定」が見られたということであった。

呉・金（2020）の調査で日本語の例として挙げられていた感謝応答表現、は以下の表1に示す通りである。

表1 日本語の例として挙げられていた感謝応答表現※

分類	感謝応答表現の具体例
承認	「うん」「どうぞ、召し上がれ」
否定	「いやいや」「全然いいよ」
相互感謝	「お互い様だよ」「あの時はありがとう」
喜びの表出	「力になれてうれしい」
助けの意思の表明	「また何かあったら言ってね」「いつでも言ってください」
恩返しの要求	「次は〇〇がおごってね」「何かおごって」
冗談	「あとで10倍にしておごってね」
謝罪	「ごめんね」「こんなことしかできなくてごめんね」「間違ってたらごめんね」
不満の表出	「本当に疲れた」
話題転換	「勉強頑張ってるね」「お疲れ様」「仕事頑張ってください」
非言語表現	「微笑み」「真顔」「頷き」「鼻高」「すまし顔」「苦笑い」「にこにこ」

※ 呉・金（2020）より筆者がまとめた

呉・金（2020）の結果から、場面Ⅰの「好意で贈り物をあげた」の場合は西（2006a）の調査結果と同様、「非言語表現」による応答を用いることが明らかになった。また場面Ⅱの「教授の依頼で助けてあげた」場合は否定や承認が多く、場面Ⅱ「親しい友達の依頼で助けてあげた」場合は否定が多いことから、対象者別（相手による差）の違いで、応答に差が出るのがあきらかになった。また、場面Ⅱの場合、負担の程度の差は日本語の場合あまりなく、否定や承認が用いられるとのことであった。ただし、表1に示された表現が負担の程度が大の時に用いられたのか小の時に用いられたのかは示されていない。

呉・金（2020）では、表1のように表現の分類がなされたが、表1に挙げられた表現はどの表現も

単文で短いように思われる。負担の程度が小さい場合は短い表現を用いることは納得できるが、負担の程度が大きい場合、他の表現で言う必要はなかったのだろうか。

3.3 徐・陳 (2021) による調査

呉・金 (2020) の研究で見られる表現以外に感謝の応答表現として、どのような表現が見られるのだろうか。徐・陳 (2021) はコーパスの実例で確認している。

徐・陳 (2021) は中納言の各コーパス (6 種 : 現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言版 (BCCWJ) 3000 件、日本語話し言葉コーパス (CSJ)、日本語日常会話コーパスモニター公開版 (CEJC)、名大会話コーパス (NUCC)、現日研・職場談話コーパス (CWPC)、日本語歴史コーパス (CHJ) の 3767 例のうち、「ありがとう」の後ろに返答が続く例文の 205 例を分析した。その結果は表 2 に示す通りである。

表 2 「ありがとう」と言われた場合何と返答するか※

返答の分類	用例数	%
① 「ありがとう類」で返答	58 例	28.29%
② 「いいえ類」という否定型の返答	37 例	18.05%
③ 「うん類」という肯定型の返答	37 例	18.05%
④ 「はい類」という肯定型の返答	31 例	15.12%
⑤ 「どういたしまして類」	13 例	6.34%
⑥ 「いい類」	6 例	2.93%
⑦ 「そのほか」	23 例	11.22%

※徐・陳 (2021 : 139) より筆者がまとめた

徐・陳 (2021) は、表 2 に示すように①から⑦の分類を行っているが、西 (2006a) や呉・金 (2020) の用例と比べ、「ありがとう」という御礼に対し、①「ありがとう類」で返答する用例が多く、全体の四分の 1 以上を占めていることがわかる。このような例を呉・金 (2020) では「相互感謝」と呼んでいる。コーパスでの場面による使用状況の詳細は不明であるが、日常生活をふり返ってみると、「ありがとう」に対し「ありがとう」で返答する相互感謝の場面は多いように思われる。

さらに、徐・陳 (2021) はインタビュー協力のお礼に対する応答を対面によって中国の日本語学習者 64 名を対象に調査を行っている。「今日はインタビューに協力してくれて、どうもありがとうございます」といった際に、どう返答したのかを、非言語行動も考慮に入れて分析している。その結果、「ありがとう類」48 名、「無言」9 名、「いいえ類」4 名、「はい類」3 名であったという。学習者も同様の応答をしていることから、「無言」「承認」「否定」以外に、「相互感謝」も場面によっては多く使われていることが明らかになった。

一方、①から⑥の表現は短い応答であるが、⑦「そのほか」ではどのような表現が見られたのだろうか。⑦「そのほか」の例について、筆者が BCCWJ を調べたところ、資料 1 のような用例が見られた。

資料 1 からわかる通り、いくつかは小説の中のセリフであり、実際の表現ではないが、話し言葉の場合は、感謝の応答表現として長い表現は好まれないということが言えるのではないだろうか。負担の程度に関わらず、短い表現で応答していることが推察される。

資料1 現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) に見られる用例

- 1) 「ライヴと一緒に来てくれてありがとう。」「別に、暇だったし。」(BCCWJOB6X_00016)
- 2) 「ブザーを押してね」「ありがとう。至れり尽くせりだね」
「当たり前じゃない。私と一緒にいたら、家の中のことは何ひとつ…」(BCCWJLBr9_00166)
- 3) 「みんな、あなたのお陰よ。ありがとう、チャールズ」
「お互いさまさ。きみの食事がなかったら、わたしは飢えて死んでいたかもしれない…」(BCCWJOB4X_00266)
- 4) 「昨日は助けていただいてありがとう」「たいしたことじゃないさ」(BCCWJPB39_00314)
- 5) 「ありがとうございます」加納は頭を下げた。「礼なんていいわよ。それより、用事を済ませてしましましょう。」(BCCWJLBp9_00162)

現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) より

3.4 話し言葉における感謝表現に対する応答表現に関する考察

以上のことをふまえ、西 (2006a)、呉・金 (2020) の結果より、感謝の応答表現は親疎関係と負担の程度で決まると言える。また、西 (2006a)、呉・金 (2020)、徐・陳 (2021) の結果から、話し言葉の場合、感謝表現に対する応答表現には、短い発話が多い。また「無言」の非言語表現での応答が可能であり、「承認」「否定」以外に、「相互感謝」も場面によっては用いられることがわかった。

感謝の応答表現を親疎関係、負担の程度から3つの先行研究に示されている例を当てはめると、図1のようになることが考えられる。

<p>負担大 ↑ 負担の程度 ↓ 負担小</p>	●英語資料の翻訳【否定】	●英語資料の翻訳【否定】	●資料収集の手伝い【否定】	●資料収集の手伝い【否定】
	●本を見せてもらう【否定】	●本を見せてもらう【否定】		
			◇インタビュー終了時の応答【相互感謝】	
	●ご馳走する【承認】	●ご馳走する【承認】	●資料のコピー【承認】	●資料のコピー【承認】
	●お土産をあげる【承認】	●お土産をあげる【承認】	●お土産をあげる【承認】	●お土産をあげる【承認】【非言語】【否定】
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ★西(2006) ●呉・金 (2020) ◇徐・陳 (2021) </div>			★道や店の場所を教えてもらう ★写真の撮影 ★アンケート調査の協力 【非言語】【否定】
親疎関係	親しい友人・親しい後輩・家族	疎の友人・疎の後輩	親しい目上の人	疎の目上の人/疎の人 (知らない相手)
	<p>親 ← 親疎関係 → 疎</p>			

図1 先行研究から予想される感謝表現に対する応答表現

表中の「★」は西（2006a）に挙げられていた例とその応答表現のタイプ、「●」は呉・金（2020）に挙げられていた例とその応答表現のタイプ、「◇」は徐・陳（2021）に挙げられていた例とその応答表現のタイプである。

図 1 を見ると、上段になるほど頼まれたことに対する負担の度合いが大きく、そのお礼を言われた際に、【否定】で答えることが多いように思われる。また、下段になるほど負担の度合いが小さく、【承認】で応答するように思われる。負担の度合いが小さい場合は「疎の目上の人/疎の人（知らない相手）」であっても言葉を用いず、【非言語】で応答することも可能になる。

本研究の冒頭で述べた学習者 A はコンビニの買い物に対する負担の程度の小さい場合の応答であるため、疎の人（知らない相手）であっても、否定表現の「どういたしまして」のように丁寧に応答する必要はない。したがって、学習者 A には【非言語】で微笑み返すか、袋詰めしてもらったことに対する感謝として「ありがとう」という表現を用いるのがよいと助言するのがいいと思われる。

4. 書き言葉における感謝表現に対する応答表現

書き言葉における感謝の応答表現に関する先行研究は、管見の限り見当たらない。そこで、本研究で収集しているメール文のデータを用い、一例として感謝の応答表現についてみていくことにする。

4.1 調査概要

本研究では、日本語教師 11 名、日本人大学生 12 名、JLPT N2 以上の日本語学習者 11 名（中国語母語話者 7 名、韓国語母語話者 4 名）計 34 名を対象に、専用の web サイトでメール文を入力してもらい、収集した。収集期間は 2025 年 6 月から 2026 年 1 月である。今回扱ったのは以下のタスクである。

【メール文タスク】

仲のいい友だちの井上さんの卒業論文の短い資料を翻訳してあげました。以下のお礼のメールが来たので返信をしてください。

〇〇さん
 こんにちは。この間は翻訳、どうもありがとうございました。資料のことがよくわかりました。
 〇〇さんのおかげで、論文、少し進みました。本当にありがとうございます。
 井上

4.2 結果

日本語教師の JT123 の場合は、以下のようなメール文を作成した。

宛名	井上さん
挨拶	こんにちは。
送信御礼	メールどうもありがとうございます。
お礼に対する応答	<u>お役に立ててよかったです。</u>
今後の申し出	また何かお手伝いすることがあったら、メールをしてくださいね。
署名	JT123

本研究では、このメール文に書かれている「お礼に対する応答の部分」の下線部「お役に立ててよかったです」に相当する表現に注目する。

表 3 に日本語教師 11 名、日本人大学生 12 名のお礼に対する応答の部分の文、表 4 に日本語学習者 11 名のお礼に対する応答の部分の文を示す。

表3 日本語教師と日本人学生によるお礼に対する応答に用いた文

No.	日本語教師	No.	日本人学生
JT002	お役に立ててよかったです。	JNS002	少しでもお役に立てたなら良かったです。
JT005	いえいえ、お役に立てて嬉しいです！	JNS005	お役に立てて嬉しいです。
JT102	お役に立てて何よりです。	JNS009	井上さんのお役に立ててとても嬉しいです。
JT105	お役に立ててよかったです。	JNS014	お力になれたようで良かったです。
JT108	お役に立ててよかったです。	JNS202	お力になれたようで、よかったです！
JT111	とんでもないです。	JNS205	井上さんの役に立てて良かったです！
JT114	翻訳、お役に立ったようでよかったです。	JNS208	論文が進んだとのことで、良かったです。
JT117	翻訳、少しですが役に立ててよかったです。	JNS211	井上さんの役に立ててうれしいです！
JT120	こちらこそお役に立ててうれしいです。	JNS214	こちらこそお役に立てて良かったです。
JT123	お役に立ててよかったです。	JNS217	この間の翻訳のおかげで、論文が少し進んだという言葉聞いて安心しました。
		JNS223	井上さんのお役に立てたのならよかったです。
		JNS226	井上さんのお役に立てたようで嬉しいです。

表4 日本語学習者によるお礼に対する応答に用いた文

No.	母語	日本語学習者の応答
JL005	韓国語	少しでも役に立てたなら嬉しいです。
JL023	韓国語	お役に立てたなら嬉しいです
JL029	韓国語	お役に立ててよかったです。
JL032	韓国語	こちらこそ翻訳による言語能力の涵養を図らせる機会を与えられたことに感謝です。
JL002	中国語	<u>力</u> になれたならよかったです。
JL008	中国語	私は <u>役に立って</u> いて嬉しいです。
JL011	中国語	資料が井上さんの論文に <u>役立つ</u> ことができ、良かったです。
JL014	中国語	お役に立ててよかったです。
JL017	中国語	どういたしまして。井上さんの論文に <u>役に立</u> て、嬉しいです。
JL020	中国語	こちらこそありがとうございます。私自身も非常に勉強になりました。微力ながら、お役に立てて嬉しいです。
JL026	中国語	お役に立てて本当によかったです！少しでも論文が進んだなら、私も嬉しいです。

表3を見ると、日本語母語話者の場合、「お役に立てて+よかったです/何よりです/うれしいです(以

下、形容表現)が日本語教師は10名中8名、日本人学生は12名中5名で、多かった。また、「役に立つ」を使った表現は、このほかに「お役に立ったようで(日本語教師1名)」「お役に立てたようで(日本人学生1名)」「お役に立てた(の)なら(日本人学生2名)」のように用いられており、このメール文タスクの場合「役に立つ」を用いて応答するのがふさわしいように思われる。

次に、表4を見ると、日本語学習者は日本語母語話者と同様「役に立つ」を使って、応答しようとしている。日本語母語話者と同じ表現「(お)役に立てて+形容表現」を使っているのが4名、「(お)役に立てたのなら」が2名であった。しかしながら、下線部に示した「役に立っていて(JL008)」、「役に立つことができ(JL011)」、「役に立て(JL017)」、「力になれたなら(JL002)」のように意味は通じるものの、日本語母語話者とは異なる表現が見られた。

4.3 書き言葉における感謝表現に対する応答表現に関する考察

本研究の「親しい友人に頼まれ翻訳を手伝い、お礼のメールが来たので返信をする」というタスクは、呉・金(2020)の「同じ授業を受ける親しい友人が英語資料の翻訳を手伝ってほしいというので手伝ってあげた」と類似のタスクである。呉・金(2020)では、話し言葉のため日本語の場合、親疎や負担の程度に関係なく、「否定」が最も多く選ばれており、親しくない友人に対しては「否定」が8割以上を占めたということであった。この場合の「否定」の表現とは、「いやいや」「全然いいよ」「大丈夫、全然平気」「いいえ、とんでもないです」「どういたしまして」のような表現である。

書き言葉のメール文の場合は、「否定」を用いずに「お役に立てて+形容表現」が多く使用された。これは呉・金(2020)の例でみると、「喜びの表出」に相当する。

このことから、類似の状況であっても、話し言葉と書き言葉で同一の表現が選択されるわけではなく、それぞれの使用場面にあった表現が選択されることがわかった。本研究の翻訳のお礼に対する返信としては、「お役に立てて+形容表現」という表現を用いるのがふさわしいと思われる。また、そのことについて、本研究の日本語学習者は自らの経験で「お役に立てて」がふさわしいと気づいており、それをメール文で表現しようとしたのだと思われる。学習者の中には「お役に立てて」を使おうとして、誤用を含む異なる表現が見られたが、それは正しく使える段階に達しておらず、習得段階の違いによるものと思われる。

日本語教師の場合「お役に立てたなら」のように「なら」を用いるものはいなかったが、日本人大学生(JNS002、JNS223)や日本語学習者(JL005、JL023、JL002)の一部には「～なら」を用いるものが見られた。「お役に立てた(の)なら」もよく使われる表現なのだろうか。そこで現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)で「お役に立てた(の)なら」の使用状況を調べた。

資料2 「お役に立てて+形容表現」

- | |
|--|
| 6) いえいえ、先生のお役に立てて嬉しく存じます。(BCCWJPB59_00385) |
| 7) お役に立ててよかったです。(BCCWJOC01_07115) |
| 8) お役に立てて嬉しいわ (BCCWJLBf9_00137) |
| 9) お役に立てて嬉しゅうございます (BCCWJLBt9_00158) |

現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) より

しかしながら、「なら」を用いた表現は見られなかった。さらに「お役に立てて」で検索したところ

7件あり、そのうち「お役に立てて+形容表現」は資料2に示す4件のみであった。

一部の日本語母語話者や学習者はなぜ「お役に立てたのなら」のように「なら」を添えたのだろうか。庵他（2001）には、「なら」の用法の一つとして、次のように書かれている。

その場で初めて知った情報はすぐには自分の情報とすることはできず、いったん仮定的に捉える必要がある。（庵他 2001：411）

このことから「なら」を用いた理由として、本当に相手の役に立ったか確信が持てずいったん仮定的に捉えて、謙虚な気持ちを示すために使った可能性がある。日本語学習者が日本人のように謙虚な気持ちを示すのであれば、非常に興味深いところではあるが、お礼を言われて役に立ったという確信が持てれば「お役に立てて+形容表現」が一般的な表現なのかもしれない。

本研究の冒頭で述べた学習者Bはメールでお礼を言われたら何と返信したらいいかわからないというものであったが、本研究の扱ったタスクのような状況のメールでは「お役に立ててよかったです」のような表現が使われることが多いと助言したらよいのではないだろうか。

5. おわりに

本研究の2つの研究課題に対し、明らかになったことは次に示す2点である。

- 1) 対話（話し言葉）における感謝表現に対する応答表現は、親疎関係や負担の程度によって異なる。例えば、負担の程度が低い場合には非言語表現による応答や相互感謝の「ありがとう」を用いる。
- 2) 類似の状況であっても、対話（話し言葉）とメール文（書き言葉）では感謝表現に対する応答表現が一致するとは限らない。例えば、翻訳のお礼の場合、話し言葉では親疎や負担の程度に関係なく、「否定」が最も多い割合で選ばれるが、書き言葉で親疎関係がある程度親しい友人の場合、「お役に立てて+形容表現」を用いる。

お礼に対する応答の指導について、西（2006b）は、西（2006a）の調査にもとづき、日本語の「ありがとう」に対する応答表現として、非言語表現が多く用いられているという事実から、日本語教育の教材を分析したうえで、会話教育においてどのように指導すべきかを検討している。その中で、「どういたしまして」の使用に多くの条件や制限があることから、初級レベルで指導を行うと不自然なやりとりが身についてしまう危険性があると指摘し、中級レベルで指導することを提案している。本研究の冒頭の学習者Aはまさに不自然なやりとりとなってしまった例であろう。西（2006a）は「（いいえ、）どういたしまして」はその使用頻度から提示するのであれば初級ではなく、中級の段階が望ましいと述べているが、筆者も同感である。初級では、非言語表現による応答や相互感謝の「ありがとう」「どうも」のような表現を扱う方が学習者にとってすぐに使える表現のように思われる。

挨拶の表現はどの言語でも最初に取り上げられるが、翻訳が一語一対応になりやすく、各言語同様の意味や用法として、扱われることが多い。しかしながら、異なる使い方をする場合もある。例えば、「こんにちは」（Good afternoon）を午後の時間帯に皆が使っているかというところでもなく、影山（2015）によれば、日本語母語話者は「こんにちは」をほとんど選ばず、「お疲れさま（です）」などの

挨拶を用いるということである。「どういたしまして」も同様で、いつでも使っていいわけではないことが本研究の結果からも明らかである。挨拶の表現は日本語教育のどの初級教科書においても取り上げられているが、どのような場面でどんな相手に用いる挨拶なのかを改めて考えてみる必要があるのではないだろうか。

本研究では書き言葉の場合としてメール文タスクを1つだけ用いたが、感謝の応答表現の全容が明らかになったわけではない。今後は、親疎関係や負担の程度が異なるさまざまなタスクを用意して、「メール文における感謝表現に対する応答表現」の実態を明らかにする必要がある。今後も引き続き調査を行っていきたい。

謝辞：本論文の作成にあたり、第38回日本語教育連絡会議にご参加の皆様には貴重なご意見、ご助言をいただきました。ここに敬礼を申し上げます。本研究はJSPS科研費JP24K03977の助成を受けたものです。

参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘（2001）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブックスリーエー・ネットワーク』
- 影山佳世子（2015）「回避される〈こんにちは〉と選択される〈お疲れさま〉：母語話者の現状と日本語教育での扱いについて」『日本語研究』35, 125-137.
- 呉惠卿・金明熙（2021）「感謝に対する応答の日韓比較：大学生を中心に」『ICU 日本語教育研究』17, 3-20.
- 徐秀姿・陳玉（2020）「中国人日本語学習者の「ありがとう(ございます)」に対する返答の一考察：日本語母語話者の場合と対照して」『研究会報告/日本語文法研究会編』47, 136-145.
- 西香織（2006a）「「ありがとう」と言われたら：鹿児島市における意識調査及び街頭調査を通して」『鹿児島県立短期大学地域研究所研究年報』37, 1-15
- 西香織（2006b）「感謝に対する応答の指導について—日本語教育の視点から—」『人文：人文学会論集 鹿児島県立短期大学人文学会 編』30, 25-41.

参考サイト

現代日本語書き言葉均衡コーパス BCCWJ<<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/>>（2026年1月31日）